

播磨灘広域共同調査（抄録）

（平成19年度漁場環境保全総合対策委託事業）

住友 寿明・酒井 基介・平野 匠

本調査は養殖魚類及び貝類の大量へい死を引き起こす *Chattonella antiqua* や *Heterocapsa circularisquama* 等に代表される有害赤潮種の増殖と環境要因との関係を調査・検討し、効果的な赤潮モニタリング及び予察技術の確立に資するため、平成19年6～8月の間、兵庫県、岡山県、香川県と共同でプランクトン出現調査、海洋環境調査等を実施したものである。

平成19年度における徳島県担当水域（播磨灘南東部）での有害プランクトンの出現状況について取りまとめたので、その概要を報告する。なお、詳細については「平成19年度漁場環境保全総合対策委託事業 赤潮等被害防止対策事業報告書」を参照されたい。

有害赤潮プランクトンの出現状況

Chattonella antiqua および *C. marina* は調査開始当初から出現し、本県沿岸の播磨灘南部でも出現がみられたが細胞数は少なく漁業被害も発生しなかった。珪藻が先に優占したため増殖できなかったと考えられる。

Karenia mikimotoi も調査開始当初から出現したが、低密度の出現に留まり赤潮を形成しなかった。

Cochlodinium polykrikoides も調査開始当初から出現し、8月上旬には最高細胞数6.33cells/mlまで増加したが、その後減少した。

Heterocapsa circularisquama は播磨灘では期間を通じて出現がみられなかった。

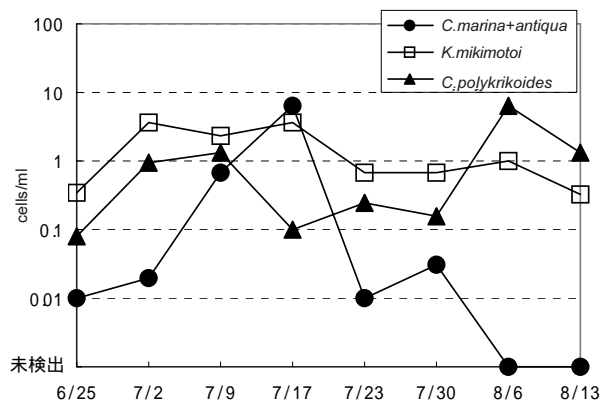


図1 播磨灘における有害プランクトン細胞数の推移